ウイルス検定

(1) イネ縞葉枯病ウイルス ア 目 的

目的

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒の実態を明らかにし、今後の防除対策に資する。

イ 採集及び検定方法 (ア)供試虫の採集 越冬世代:2007年(平成19年)3月6~20日 第1世代:2007年(平成19年)5月10~23日

(イ)検定方法

ラテックス凝集反応法により、越冬世代は3月29日~4月4日、第1世代は5月31日、6月1日、6月4~5日に検定を行った。

ウ 結果の概要

第1表 越冬世代の各地点における保毒率

採集場所	検定虫数(頭)	保毒虫数(頭)	保毒率(%)
長崎市郡海河 田市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市	59 200 101 77 159 200 26 200 165 200 150 200 100	1 15 5 4 3 31 1 6 5 7 4 11 2	1.7 7.5 5.0 5.2 1.9 15.5 3.8 3.0 3.0 3.5 2.7 5.5 2.0
松浦市志佐平戸市紐差	6 50	0 1	2.0 0 2.0
合計 (平均)	1893	96	5.1

第2表 過去の越冬世代の保毒率の推移

<u> </u>		/ / 	1 III /			
調査年度	H14	H15	H16	H17	H18	平年
保毒率(%)	0.7	2.4	2.1	3.8	2.6	2.3

注)平年値は平成9~18年の平均(最大・最小値を除く)

第3表 第1世代の各地点における保毒率

調査地点	検定虫数(頭)	保毒虫数(頭)	保毒虫率(%)
長西諫諫諫諫諫諫大東雲雲佐佐松平五五壱崎海早早早早村彼仙仙世世浦戸島島岐市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市市	28 62 150 150 16 150 100 72 107 150 150 25 40 20 34 —	2 1 5 4 0 3 0 3 0 1 2 3 1 0 2 - -	7.1 1.6 3.3 2.7 0 2.0 0 4.2 0 0.7 1.3 12.0 2.5 0 5.9 — —
合計 (平均)	1254		2.2

第4表 過去の第1世代の保毒率の推移

調査年度	H14	H15	H16	H17	H18	平年
保毒率 (%)	0.8	0.9	2.0	3.9	1.8	1.2

注) 平年値は平成9~18年の平均(最大・最小値を除く)

(2) イネ萎縮病ウイルス

アードー的

ツマグロヨコバイのイネ萎縮病ウイルス保毒の実態を明らかにし、今後の防除対策に資する。

イ 採集及び検定方法

(ア) 供試虫の採集

2007年(平成19年)5月21、23日

(イ) 検定方法

ラテックス凝集反応法により6月5日に検定を行った。

ウ 結果の概要

ツマグロヨコバイの第1世代のウイルス保毒率は平年並であった(第5、6表)。

第5表 各地点における保毒率

採集場所	検定虫数(頭)	保毒虫数(頭)	保毒率(%)	
諫早市小船越 諫早市小野 諫早市森山	92 122 36	0 0 0	0 0 0	
合計 (平均)	250	0	0	

第6表 過去の第1世代の保毒率の推移

ı	調査年度	H14	H15	H16	H17	H18	平年
	保毒率 (%)	_	0.2	0	0	0	0.2

注) 平年値は平成9~18年の平均(最大・最小値を除く) ーは調査未実施